

# 原つ子

学校だより No.7 (通算50号)  
令和5年5月18日  
小都市立大原小学校  
校長 山本貴澄 Tel 72-5500

今年度の重点目標「学び合い 助け合い やり遂げる集団づくり」  
合言葉「チャレンジ！ みんなでまなぶ やりとげる」



【朝の読み聞かせ】

爽やかな日が続いています。運動場や中庭には元気よく遊ぶ子どもたちの声が響いています。夏日になる日も多くなり、熱中症も心配されるようになってきました。朝ご飯をしつかり食べて登校してください。十分な量が入る水筒や汗ふきの準備もお願いします。学校では喉が渴く前に水分をとること、帽子をかぶって外に出ることも指導しています。

## 「七夕おはなし会」による読み聞かせスタート！

新型コロナウィルス感染症への予防対応が緩和され、「七夕おはなし会」の皆さんによる読み聞かせが3年ぶりに再開できました。素敵な絵本との出会いを楽しんでもらおうと、先週月曜日の朝活の時間、各教室でおすすめの絵本を読み聞かせていただきました。これから毎月第2月曜日の朝に読み聞かせをしていただきます。

学校図書館の坂川先生も給食時間の放送での読み聞かせや子どもたちが読書に親しめるように素敵な校内環境づくりをしていただいている。読書はいろんな知識を増やし、心を豊かにしてくれます。読書が好きな子どもたちが増えることを願っています。

## 5年 大原ふるさと教育 大原小アグリカルチャー ～「田中新吾」の業績～

小都市は米作りが盛んな地域です。先週5年生は小都市埋蔵文化財調査センターの出前授業で、明治・大正時代に小郡の農業発展に尽力した「田中新吾」について学びました。

### 【田中新吾】1849（嘉永2）～1921（大正10）

明治時代、味坂村に生まれ県会議員として活躍し、筑後川の改修工事や農業の発展に貢献しました。明治28年（1895）に三井郡農会を組織し、農会長を務めました。大正元年（1912）には、米の新品種である「三井神力」を開発。彼の業績により小郡の農業改良は急速に進み、米の生産量が明治の終わりには、明治初期の2倍になりました。味坂小学校には、彼の胸像が建てられています。

5年生はこれから社会科や総合的な学習を通して、米作りの調べ学習や田植えなどの体験を通して、地域や日本の農業の様子、未来の農業の在り方について追究していきます。



### 【子どもの感想】

田中新吾さんは、いろんな農家の人のために県会議員になり、国に何回も頼み、お金を貸してもらって川をまっすぐにし、新しい米づくりや麦づくりの道具を作ったり、銀行をつくってお金を貸し出してその道具を買えるようにしたり、遺伝で品種改良したりしたんだなあと思いました。昔、小郡市らへんは、大洪水がたくさん起きてたことを初めて知った。三井郡のお米の収穫量が2倍になったのはすごいと思いました。三井神力の子供や孫があるのもすごいと思いました。4メートルの洪水があったなんて想像もできないです。三井神力がいろんな県に広まったのはすごいと思いました。国に20回ほど頼む粘り強さもすごいと思いました。田中さんが川の工事の終わりを見られなかつたのは残念だと思いました。自分の田んぼを1haを貸し出したのは懐が深いなあと思いました。お米作りにほとんど一生を捧げるなんてすごいなあと思いました。今度埋文に行って、他の道具もみたいなあと思いました。